

都市政策・地域経済コース I 講義録

- 【テーマ】 「名古屋錦二丁目地区のエリアマネジメントとアート
～構想をうごきに、うごきを仕組みに～」
- 【講師】 名畑 恵氏 NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事
錦二丁目エリアマネジメント株式会社代表取締役
- 【日時】 令和2年12月11日（金）18：30～21：00
- 【場所】 Zoom を活用した双方向の授業

○講師紹介

大学生であった2004年から錦二丁目地区に携わる。(故)延藤安弘先生に出会い、名古屋の歴史的建造物撞木館が、市民活動によりいかに守られ活用されていくかを間のあたりにし、夢がかなうことを知る。恩師延藤安弘先生より「まちづくり」から「まち育て」と教わり、錦二丁目のまちづくりを引き継ぎ、様々な試みを繰り返し、今に至る。2018年よりエリアマネジメント会社を設立し代表として錦二丁目のまちづくりを牽引している。現在、各地にてワークショップの手法にまちづくりのファシリテーターをつとめる。「皆でつくる」ワークショップの参加者の意見を十分聞くことにより、着実にステップアップし、地域の人が主体的にかかわり、管理・運営にも関わる環境を構築している。

○講義の概要

第一部では、名古屋市錦二丁目地区のエリアマネジメント20年の取り組みと今の現状を講義していただき、第二部では、グループワークにて錦2丁目の課題と将来像を考える。

≪第一部≫

1. 錦二丁目のまちの背景

- ・ 繊維問屋としての発展してきた町 産業不況により街を去る会社・人が増加
- ・ 名古屋市都心の二極一軸（グランドクロス）の中心で、名古屋駅と栄の谷間のまち オフィス街であり、昼間人口2万人夜間人口440人である。
- ・ 江戸時代からの碁盤割（清州越しといわれる町全体の引っ越しによって作られた）の街
- ・ 2000年に「長者町ゑびす祭り」長者町協同組合の50周年記念祭とシャッターペイント
- ・ 空きビル空土地の増加により、安全性が危惧され、長者町を中心に街を守る機運があり、空きビルの6棟を有志が出資し運営、所有権は移転しながらも今も継続利用されている。
- ・ 昨今、建設ラッシュでオフィス・ホテル・マンション建設が著しい。

2. まちづくり事業としての活動の流れ

2004年錦まちづくり協議会が設立され、設立総会からNPO法人まちの縁側育み隊（延藤教授・名畑氏）が継続的に関わり、構造づくりが始まった。

2008年 町独自のまちづくりの拠点でもある「錦二丁目まちの会所」(人の集まれる場所)を復活・活用する。これにより、地域の大学との連携・学生の発表の場所にも会所を利用、地域の若手グループ、町内会など多様な協働関係が作り出せることになる。小学校教育でのまちの魅力の再発見をすることにより成長した後も誇れる街にするなど、まちづくりと同時に人づくり・人育てに力を入れている。

3. プロジェクト

- リノベーション事業 古い建物をゼネコンや地権者ではなく街の人が主役になる。
 - 町の人が語った言葉を「長者町かるた」として作成し、オーラルヒストリーを大切にす。
 - 歩道拡幅社会実験 広い道路に反して車が減るため歩道の拡幅の実験から運用へ。
 - 都市の木質化プロジェクトとして、安心居住・共生文化・元気経済の3つを掲げ、木の角材でベンチなどを作成するなど公共空間デザインを行う。この角材は定期的に交換する。
 - 一斉清掃などにより新しく来た人との交流をはかり、お互いに知りあう。
 - 2011年マスタープラン&低炭素モデル地区として2030年までのまちづくり構想を策定。
 - あいちトリエンナーレ2010、2013、2016まちづくりの視点でアートを受け入れる。
- 国際博が来るとはどういう意味があるかをイベントでイメージづくりと徹底的な議論
まちなか結婚式ではケーキカットの代わりに木材を切る。新郎新婦だけではなく街の人が関わる。毎年行われることにより、街に浸透。このカップルは街に移住してきた。また、当初は地元の人に危険といわれたアーティスト制作の山車も、毎年作者が戻ってきて更新され、いまでは祭りに欠かせないものとなるなど、2010年には29カ所で47組のアーティストが参加した結果、様々な人が流入し、継続的に関わっている。

4. その結果

- ・アートが誘因で外からの人の流入により街の担い手が多様になった
- ・木の角材は手がかかるが、「面倒」が地域を育て、文化を耕すことになっている。
- ・キーパーソンを発掘した 普通の人がキーマンになりまちづくりのリーダーになる。
- ・地域の個性ある風景を残していくことにより、街に愛着と誇りを持つ。
- ・眠っていたスペースがクリエイティブな場所になる。「期間限定で貸す」ことが、空き店舗を埋めることになり、私的財産を公共の場に活用することを街の人が知るきっかけとなる。
- ・各プロジェクトによる多様な取り組みで人が集う街になってきた。

5. 現在の状況

○今は仕組みづくりの時期

・錦二丁目の10の町内会、長者町協働組合、錦二丁目まちづくり協議会、錦二丁目7番地区市街地再開発組合からなる一般社団法人錦二丁目まち発展機構が100%株主となる「錦二丁目エリアマネジメント株式会社設立。NPO法人から株式会社になることにより、地域の人の意見を反映しながら、採算性のある収益授業を基軸に、地域全体のエリア満治メントの仕組みをつくる。この株式会社は、7番地区30階建てのマンションの1・2階を運用し、テナントミックス事業とエリマネ活動の拠点となる。中心に「会所」を置き、「会所のネ

ットワーク化」を図る。

- ・SDGsにあてはめ、まちづくりに企業活動を巻き込んで、暮らしのあるまちづくりへの転換をめざしている。現在はビルの解体や就労支援を行い、今後は多様なビジネスのハブとして活動していく。成り行きではなく機会を創生していく。
- ・再開発により、30階建てのマンションをはじめ、マンションの建設ラッシュである。新住民の急激な増加により、今後は夜間人口が大幅に増える。街の構造が変化していく。
- ・住民が増えるのに反して、担い手が変わっていくことが懸念される。地縁組織の弱体化また、ボランティアの限界も見えてきている。

6. グループワークにより、印象に残ったことを挙げ、錦2丁目できりくみしたいアイデアを仕分けし、提案としてまとめる。(グループごとに発表)

各グループからは、新住民を巻き込むしくみづくりとして条例の提案や具体的でわかりやすい6か条の提案が挙げられた。また、実際的にマンション管理組合との協力、ボランティアが疲弊しない仕組みづくりなどソーシャルキャピタルの高い街を目指していくことが提案された。

7. 講師よりワークショップのまとめとして以下の3点が提示された

- いい場所作り：新旧住民をつなぐ 風土記
- 我を生かせる：多様多層化 ミックスコミュニティ
- いいコミュニティビジネス：シェアリングエコノミーなどサブスクビジネスの構築

この3点をまとめ、頭文字をつなげ「生きがい」とした。リアルな事件現場としてのフィールドが提供できることを強みとし、街に関わることにより個人が豊かになる事を目指しながら、街を継続的に発展させる状況づくりをしていくと締めくくられた。

8. 質疑応答

【質問】 角材を利用したプロジェクトの木材は、どのように再利用されているのか

【回答】 このプロジェクトは10年目を迎え、すでに4代目。角材は指摘の通り「割れ」が激しく、初代はチップとして断熱材に使われ、2代目は角材のままアート空間委利用され、3代目は最初から切れ込みを入れて「割れ」を最小限にし、建材として使用する実験段階である。